

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3871000331
法人名	有限会社 たちばな
事業所名	グループホーム たちばな
所在地	愛媛県伊予市灘町136-2
自己評価作成日	平成23年3月10日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成23年3月31日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

協力医院と連携して、利用者様の健康管理を行っており、またリハビリなども行いADLの向上に努めています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

近所の方がお花を届けてくださったり、時には食事作りに協力して下さることもある。地元商店街に、地域の方が集うコミュニティスペース「いっぷく亭」があり、利用者も時々出かけて地域の方達とともにお茶を飲んだり、手芸等を一緒にされている。又、11月の「いっぷく亭祭り」や、敬老の日等には「介護よろず無料相談会」を開催して、地域の方からの介護や医療の相談に乗っておられる。  
ピアノの得意な利用者が、行進曲等を電子ピアノで弾いてくれて、他の利用者がカスタネットをたたき演奏するような時間がある。利用者の行きつけの散髪屋の方が来てくれて散髪してもらっている。  
前回の評価実施後に、おむつ等の介護用品をタンスに収納し整理しておられた。

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム たちばな

(ユニット名) グループホーム B棟

記入者(管理者)

氏名

山下 三生男

評価完了日

平成23年3月10日

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価)	
			スタッフ掲示板にし、いつでも見ることが出来るようにしている。	
			(外部評価)	
			事業所開設時「心の安らぎがあり 穏やかで生きがいを持ち 充実した生活をおくれる」と、事業所の理念を法人代表者が 作成されている。理念は、事務室に掲示されている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	(自己評価)	
			・外出や行事等、外部の方やご家族と出来る限り招くように 取り組んでいる。 ・定期的に新聞を発行している。	
			(外部評価)	
			近所の方がお花を届けてくださったり、時には食事作りに協 力して下さることもある。地元商店街に、地域の方が集うコ ミュニティスペース「いっぷく亭」があり、利用者も時々出か けて地域の方達とともにお茶を飲んだり、手芸等を一緒にさ れている。又、11月の「いっぷく亭祭り」や、敬老の日等には 「介護よろず無料相談会」を開催して、地域の方からの介護 や医療の相談に乗ってられる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	(自己評価)	
			・定期的に消防署との連絡を取り応急処置の方法等を学ぶ 様にしている。 ・概ね2ヶ月毎の運営推進会議や年に1回の夏祭りを開催し ている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 至らない点もあるが、概ね2ヶ月に1回開催するようにしている。御家族等に参加協力をして頂き違った視点からの意見交換を行っている。</p> <p>(外部評価) この一年間、職員の入れ替わり等のこともあって、会議開催が滞っている。昨年3月の会議時には「離設者の対応」について意見交換した際、民生委員の方より「会議に地域の人を呼んで利用者の顔を覚えてもらってはどうか」というご意見があり、その後、複数の民生委員の方が事業所を訪れてくれて、利用者とお話したようだ。11月の会議時には、ご家族から事業所からの手紙の字の大きさについて「大きくしてもらいたい」との意見もあった。</p>	<p>さらに、事業所では「会議を定期的開催して、ご家族にも多く参加していただけるよう取り組んでいきたい」と話しておられた。管理者や計画作成担当者は「会議の議題を決めてすすめていきたい」と考えておられ、会議の参加者から「グループホームに期待すること」をお聞きしながら、意見等を今後の事業所の活動やケアに活かしていかれてほしい。</p>
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) ケアプランや、規定、基準、加算項目等疑問点は市の方へ確認を行っている。</p> <p>(外部評価) 現在、市内のグループホームが集まる機会が作られているところである。昨年3月の運営推進会議に市の担当者が出席された際には、市が取り組んでいる「徘徊高齢者SOSネットワーク」の登録をすすめてくださった。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 安全の為施錠や身体拘束はあるが、出来る限り利用者の方の気持ちを大切に実施している。</p> <p>(外部評価) ユニット間を行き来する利用者の様子が見られた。利用者の中には、寝ている間にベッドからずり落ちるような方もおり、ご本人がベッドで休む際には柵を付けている。昨年の評価実施後、事業所では「身体拘束をしないケア」について話し合いをされたが「ご本人の安全を確保する」ために「ベッド柵を付けることを継続する」ことに決められたようだ。ご本人の居室には「ベッド柵を付けること」を職員が忘れないように張り紙をしていた。今後も、ベッド柵をしなくても済むようなケアの工夫について、職員で話し合いを続けていかれてほしい。</p>	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)  学ぶ機会を持っていない(研修へ参加する等)	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)  学ぶ機会を持っていない(研修へ参加する等)	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)  口頭と文章で説明を行い十分に御理解頂いた上でサインや印を頂いている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)  職員から御家族に対して連絡に努めている。面会等の際は利用者様の日頃の様子を伝えるようにしている。  (外部評価)  ご家族の来訪時に職員は、口頭でご本人の日々の様子を伝えたり、行事時の写真をお渡しすることもある。ご家族の顔が見えないと、管理者は、ご家族に電話をかけて、ご本人の様子を伝えご家族との関係作りに努めておられる。利用者はご家族と墓参りに行かれたり、花見等の行事時にはご家族にも案内して、一緒に出かけるご家族もいる。	利用する側であるご家族からの意見等は、事業所のサービスをよくしていくきっかけにもなり、さらに事業所でも意見を引き出せるよう工夫してみてほしい。ご家族とゆっくりお話するような機会を作ってみてはどうだろうか。又、職員の紹介や食事や入浴・外出の支援等、ご家族が知りたいような情報を探り、情報提供についても工夫して、さらに具体的に意見を引き出していかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的に(1ヶ月毎)スタッフ会議を開催している。</li> <li>その都度、職員の意見を聞くようにしている。</li> </ul>	
			(外部評価)	
			事業所では、職員が「利用者と過ごす時間を作れるよう業務を分担する」ことに取り組んでおられる。職員が行う業務の内容を細分化して「職員のできること・できないこと」を、管理者等が評価し、職員の組み合わせを考えて勤務表等を作るようにされている。新人職員は、先輩職員に3カ月くらい付いて習う期間を設けておられる。	さらに、事業所では、職員の定着やチームワーク作りを強化するような取り組みに力を入れていこうとされている。職員が勉強したいような内容を聞き取り、個々がスキルアップできるよう取り組まれたり、事業所のケアサービスがよくなるようなアイデアや提案を職員で出し合い、反映していくような取り組みも期待される。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			各人の能力に応じた勤務体制を取っている。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			職員の能力に応じ業務内容や研修・会議等の参加をさせている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価)	
			毎週土曜日に同施設内他事業所スタッフと交流の機会を作っている。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			好き嫌いや生活リズム、周囲の環境等把握するように努めている。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 経済面や生活面、医療との関係作りについて説明を行っている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 利用者様にとっての安全と安心に対するサービスの内容や家族にとっての不安や負担を聞く様にしている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 家族として(自分の)対応するように努めている。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会等の際、御家族の希望を聞くことや又御本人様の状態を伝え御家族にとっても安心して頂ける様に努めている。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会に来て頂いたり、こちらから会いに行けるように支援している。 (外部評価) ピアノの得意な利用者が、行進曲等を電子ピアノで弾いてくれて、他の利用者がカスタネットをたたき演奏するような時間がある。利用者の行きつけの散髪屋の方が来てくれて散髪してもらう方がいる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) コミュニケーションがはかれるよう必要に応じて職員が間に入っている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 複合施設の利点を活かし、御本人様の為によりよいサービスがないか御家族の気持ちも含め利用して頂ける様に努めていく。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日頃から声かけを行い、本人の意向を把握出来るよう努めている。困難な方は本人本位で物事を考えるようにしている。	
			(外部評価) 職員は、利用者の日々の様子や「訴え」から、利用者の思い等を知り得ておられる。ご家族からご本人が不安な時には「背中等をさすってあげてほしい」と教えてもらい実践されている。	利用者一人ひとりについて、ご本人がよく言う言葉やよく見せる表情等についての情報を集めて、アセスメントして個々の思いや意向を探っていかれてほしい。利用者個々の情報を支援に採り入れながら、ご本人らしい暮らしを支えていかれてほしい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 個人ファイルに生活歴や生活環境など記入し職員が把握出来る様にしている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 介護記録にて1人1人の生活リズム、状態が把握出来る様にしている。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>面会等で御家族のケアに対する意見等を聞く様に努めている。1月に1回医療とのカンファレンスを設けている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>「安全・安心の確保」を基本に、日常生活動作についてアセスメントして、介護計画を作成するようにされている。入居時、ご家族にケアについての意向を聞くようにされている。</p>	<p>さらに、ご本人やご家族の意向等をもとにした介護計画の作成にも取り組んでいかれてほしい。ご家族と、利用者の暮らしとケアについて、ゆっくりお話する時間を作り、ご家族の要望をお聞きしたり、利用者にかかわる人たちとともに、ご本人を支えていけるような介護計画の作成に取り組み、利用者の生活の拡がりを支援していかれてほしい。</p>
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>介護記録に記入し、朝・夕の申し送り、昼にミーティングを行い情報を共有し、実践している。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>夕涼み会や餅つきなど他部署の方達と一緒にやっている。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>年間行事の際に周辺施設へ協力依頼をしている、又散歩や買物をする等御本人の気持ちにより添えるよう努めている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	(自己評価)	
			<p>24時間体制で医療従事者と連絡がとれるようになっている。</p>	
			(外部評価)	
			<p>事業所では「医療があって介護がある」という考えのもと利用者の「安全」に力を入れておられる。日勤と夜勤の職員が、それぞれの時間に利用者個々の血圧や脈拍・顔色や体の状態等を協力医療機関に報告することになっている。調査訪問時、看護師が来られ、利用者点滴をしたり、又、インシュリン注射や食事の調整等が見極めをしておられた。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	(自己評価)	
			<p>訪問看護師に健康状態や適切な処置を受けれている。</p>	
			(外部評価)	
			<p>連絡を密にして情報交換や相談を行っている。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	(自己評価)	
			<p>連絡を密にして情報交換や相談を行っている。</p>	
			(外部評価)	
			<p>早い段階で家族と話し、医師との話し合いも行っている。又、医師・看護師のアドバイスの元、介護を行っている。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	(自己評価)	
			<p>早い段階で家族と話し、医師との話し合いも行っている。又、医師・看護師のアドバイスの元、介護を行っている。</p>	
			(外部評価)	
			<p>入居時、ご家族に終末期のあり方についての意向をうかがうようにされており、ほとんどのご家族が「最期まで事業所で見てもらいたい」と希望されている。管理者は、日々の利用者の変化について「家族の目で気付くことが大事」又、職員に「利用者の様子を正しく申し送ることが大事」と情報の共有の大切さを話しておられる。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価)  他部署と連携して急変時や事故の時など、応急処置の訓練を行っている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価)  定期的に避難訓練を行っている。	
			(外部評価)  春と秋に、建物内の法人事業所と合同で避難訓練を行っておられ、消防署の方に消火器の使い方を教わった。消防団の方には、事業所の中の様子を見ていただいた。さらに、非常階段の荷物等については、いざという時の避難の障害にならないように、この機会に職員で点検されてほしい。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価)  1人1人の性格を把握し、言葉使いに気をつけ声かけを行っている。居室訪室の際も必ず本人様の許可を得てから対応している。	
			(外部評価)  利用者の安全を第一に考え「医療を優先した支援」をすすめておられる。職員の利用者への呼び方や言葉かけ、職員同士の業務上のやり取りや対応について、配慮が必要と思われるような場面も多々見られた。	「心の安らぎがあり 穏やかで生きがいを持ち 充実した生活をおくれる」という事業所の理念のもと、職員の介護技術の向上や認知症の理解もすすめながら、利用者の立場に立って職員の声かけや対応について考えてみてほしい。さらに、時々、職員同士で点検したり、又、ご家族や運営推進会議のメンバー等にも、意見等をうかがってみてはどうだろうか。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価)  本人にわかるように説明し、自己決定したり納得してもらえるようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 基本共同生活として一緒に食事やレクなど他の利用者と協力して頂く様努めるが、本人の生活リズム意思を尊重するようにしている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 髪のカットなど希望があれば美容院へ付き添って行っている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 1人1人の好みを把握し、食事を提供している。下膳や食器拭きなど職員と一緒に手伝って下さっている。 (外部評価) 調査訪問時には、職員が食事を作る音が聞こえてきた。ユニットによっては、利用者が下膳をしている様子うかがえた。利用者によってはご飯をおかゆにされている方やミキサー食にしている方もいる。職員が、利用者に「何が食べたい？」と聞くと「おいしいもの」量を「もっと食べたい」等の希望が出るようだ。調査訪問時、てんぷらの中のピーマンがお嫌いなことが分かり、職員はメモをしておられた。	利用者個々が食事を楽しむことができるような支援について、工夫できることはないか話し合われてみてほしい。たとえば、職員の利用者へのかかわり方を工夫されることでも、おいしい食事をさらに楽しむ事ができるのではないだろうか。さらに、食事を通じて利用者の「できること」を続けられるような支援にも、積極的に取り組んでいかれてほしい。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量・水分などチェック表に記入して人目でわかるようにしている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 自分で出来る人は行ってもらい、出来ない人は職員介助にて口腔ケアを行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)  チェック表にて1人1人の排泄パターンを把握してトイレ誘導を行っている。  (外部評価)  排泄チェック表で、利用者個々の排泄状況の把握に努めておられる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)  排便がしばらく見られない時は、かかりつけ医師の指示の元下剤を服用してもらっている。 朝のリハビリ体操等のレクリエーションを通して運動を働かけている。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)  本人が入浴したいかどうか確認をし入浴を行っている。  (外部評価)  「週に2~3回入浴できることを目標」に取り組まれている。午前中が入浴時間になっており、入浴を嫌がるような利用者には、時間を置いたり声のかけ方を替えたりしながら、入浴できるように支援されている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)  日中本人の希望があればソファーや居室で休息をとってもらっており、夜間も本人の就寝時間に合わせるようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価)  利用者ごとの薬情をみて理解に努めている。服薬は間違えないよう職員2人で確認を行っている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価)  食器拭きや洗濯物などを手伝ってもらったり、将棋やカラオケなどレクリエーションも行っている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価)  家族の方が面会にこられた時に一緒に買物に行かれたりしている。	さらに、今後お花見にご家族やデイサービスの方達と出かける予定もあるようだ。職員は「利用者違う風景も見せてあげたい」という気持ちを持っておられる。利用者個々の行きたいところや思い出の場所等も探り、出かけてみるような機会を作ってはどうか。
			(外部評価)  受診の行き帰り時、近所のお宅の庭先のお花を見せてもらったり、利用者の希望で近所のスーパーにアメを買いに行くことを支援されている。タクシーを利用してお彼岸には、毎年、職員と墓参りをする方もいる。建物内のデイサービスのレクリエーションに参加されたり、ひな人形の飾りを見に行ったりされている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価)  自分で管理している人もいるが、出来ない人は1人1人金庫に入れて管理している。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価)  自分で出来る人はしてもらって、出来ない人は職員が行っている。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 清掃をし、いつも綺麗な状態で居心地よく過ごしてもらえるようにしている。 季節感を採り入れるという工夫がされていない。 温度計で温度管理を行っている。	さらに、利用者が長時間過ごす居間の環境について、個々が居心地のよい空間となっているだろうか。テレビ等の音や職員の声の大きさ等、職員が作り出す雰囲気について、点検されてみてはどうだろうか。生活感や季節感を感じることができるような空間作りの工夫について、考えてみる機会にされてほしい。
			(外部評価) 調査訪問時、居間で点滴を受けている利用者が複数おられた。大型のテレビが置いてある。ユニット間にあるベランダでは、洗濯ものを干したり、日向ぼっこされる方もいる。掃除を担当する職員が、昼過ぎの時間から来て掃除を行っておられる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共用の場所を設けて利用者間同士でコミュニケーションをとってもらえるようにしている。	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 本人・家族と相談し使い慣れた物など取り入れて好みの環境になっている。	
			(外部評価) 畳に布団を敷いて休む方もいる。又、床にお気に入りのカーペットを敷いている方もおられた。人形をベッドに寝かせている利用者もおられた。前回の評価実施後におむつ等の介護用品をタンスに収納し、整理しておられた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 利用者が少しでも自立できるよう、担当職員と相談して工夫している。	